

外形そのままバリアフリー化

蒲郡の市民体育センター新装



新たに設けられた車椅子利用者用のスペース



設置されたエレベーター



リニューアルした市民体育センター

大・開成者の
空から訪問

蒲郡市緑町の市民体育センターで続いていた工事が完了した。1日、新しいなつた姿を空から眺めた。【林大朗】

1968年の建設。武蔵半世紀が過ぎ、耐震工事の必要が出てきた。市は



改修工事前の市民体育センター(2018年5月撮影)
昨年14億2600万円をかけ、耐震工事と内部の空調設備などを改修した。8月に全面的に終了した。
長年、市民から親しまれる市民体育センター(2018年5月撮影)の姿を思い出そうと、ドローンで取材した。上空からは異なる特徴的な外観がそのままに、外壁が白く塗られ、新築当時の輝きを取り戻したように生まれ変わっていた。
3年前にあったテニスコートは新駐車場になった。以前の駐車場は、薄くなっていた白線が塗り直され、車椅子マークなどが鮮明になった。
センター内部を見学した。床は新島の木材が貼られている。新たに車椅子利用者が試合観戦ができるスペースの新設やエレベーターの設置によって、一部がバリアフリー化されていた。そのおかげで、全体が温かい雰囲気になってきた。

中部経済

蒲郡市、東港地区再整備へ

「まちづくりビジョン」を策定

【三遠】蒲郡市は、このほど、JR蒲郡駅から観光名所・竹島にいたる半径約500m、通称「東港(ひがしこう)」地区を再整備するための「蒲郡市東港地区まちづくりビジョン」を策定した。今後、このビジョンをベースに企業、住民、専門家をまじえて具体的な整備計画を決めていく。
東港地区は、JR駅中心の「蒲郡駅周辺市街地エリア」、土地利用が進んでいない竹島ふ頭や周辺埋立地などの「海辺のみなとエリア」、観光地である「竹島

周辺エリア」からなる。ビジョンは、穏やかな三河湾に面した魅力を生かす「誰もが過したくなる居心地の良いまちを自指す」としている。市と民間が連携して公共空間を活用するほか、民間企業の活力による土地の再利用も進めていく。

中日

中日

19日、竹島ふ頭でライブ

オンライン配信も検討
海辺で音楽を鑑賞する野外イベント「みなとオアシスがまごおりシーサイドライブ」が十九日午後五時二十分から、蒲郡市港町の竹島ふ頭特設ステージで開かれる。
海を身近に感じてもらうと、市やラグーナテンボス、ラグーナマリナなどで行く実行委が企画し、日本財団が支援する「海と日本プロジェクト」の一環。新型コロナウイルス感染症対策として、入り口で消毒や検温を実施する。飲食の提供はない。感染状況によっては、オンライン配信への切り替えも検討する。
三重県伊勢市出身のサックス奏者ユッコ・ミラーさん、東海地区を中心に活動するジャズボーカリストの今岡友美さん、蒲郡市観光大使を務める地元出身の歌手しがせいこさんが出演する。午後八時に終了予定。
小雨決行で、荒天時は中止。参加無料、定員百人。参加申し込みは市のホームページからか、はがきで受け付ける。
締め切りは五日で、応募多数の場合は抽選となる。市企画政策課内実行委事務局 0533(06)1162
(西山輝一)

蒲郡署のヒマワリ開花

はるかプロジェクト 若手署員ら栽培

阪神大震災を語り継ぐことを目的に、神戸市の市民有志が配布した種から開花したヒマワリが、蒲郡署の玄関前で、黄色の大輪の花を咲かせ、見ごろを迎えている。若手署員が協力して育ててきた。小池勝孝署長は「署を訪れる人に見てもらいたい、防災への意識を高めてほしい」と話している。配布の取り組みは、震災



ヒマワリに水やりをする(右から)八木巡査、伊藤巡査、小池署長=蒲郡署で

署も活動に賛同し、種を譲り受けて昨年から栽培。今年は五月下旬に七つの鉢に種を植え、若手署員らが交代で水やりをしてきたところ、八月中旬から順に咲き始めた。地域課の伊藤樹生巡査(三)は「しっかりと咲くようにと、水やりを続けてきた」と話し、同課の八木彩見巡査(三)は「震災の教訓を伝えるこの活動を、さらに広めていく一助にしたい」と思いを語った。署には、プロジェクトを紹介する張り紙も掲示している。(西山輝一)